

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における
大会運営等に向けた感染症対策基準

福井県ソフトボール協会

福井県ソフトボール協会主催等の大会において、新型コロナウイルス感染症対策として「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン：スポーツ庁」「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン：（公財）日本スポーツ協会・（公財）日本障がい者スポーツ協会」、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）におけるソフトボール活動の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン：（公財）日本ソフトボール協会」、「新型コロナウイルス感染拡大に係る福井県民指針：福井県」等を準拠し、以下の基準を設け大会を開催し感染症対策に万全を期す対策基準を定める。

1 対象となる大会等

- ・ 福井県ソフトボール協会が主催、主管等の関与する大会
- ・ 役員、審判員、記録員、補助員、選手、観覧者等の関係者

2 大会運営にあたり

I 基本姿勢

三つの密（①歓喜の悪い密閉空間、②人が密集している、③近距離での会話等が行われる）を避けた活動とする。

II 受付時

① 大会参加者・観戦者・監督・選手・役員等関係者の対応

- ・ 当日の来場前に各自で検温を行い、発熱（37.5度以上）がある場合は大会への参加を取りやめる
また、咳、喉の痛み、だるさ、息苦しさ等がある場合も参加を取りやめる。
- ・ マスク着用を徹底する。マスクを着用していない場合は入場できない。
- ・ 入場時には一般的な感染対策である手洗い、うがいを行う。
- ・ タオル、ペットボトル、コップ等の共用は避ける（使い捨て紙コップは使用可）
- ・ 監督は、選手の健康状態の把握に努める。

② 連絡先及び健康状態申告書の提出

III 試合

参加しているチーム構成員、審判員、記録員、補助員等はマスク着用すること。

① 試合前

- ・ 審判員、記録員、放送員の打ち合わせは十分広い場所で間隔を2 m以上離して行う。
- ・ 攻守決定、打順表の確認等において、本塁に集まるときは、相手と2 m以上空ける。
また、握手等身体接触を伴う行為は行わない。
- ・ 試合開始時の整列及び礼は、球審の「集合準備」の合図で両チームベンチ前に整列し、その場で礼をして行う。（選手同士の間隔を1 m以上確保すること。）

② 試合中

- ・ ベンチ内では選手同士の間隔を1 m以上確保すること。
試合中ベンチ内が込み合う場合は、ファウルゾーン外の場外領域においての待機を認める。
- ・ ベンチからの歌唱、声援、大声での会話等は行わない。
- ・ ハイタッチ、グータッチ、ハグ、握手等の身体接触を伴う行為は行わない。
- ・ 自チームの応援関係者についても、密集、密接にならないように注意すること。
- ・ 唾や痰を吐かない。鼻水、唾液が付いたゴミ、使用済マスク等は必ず持ち帰ること。

選手、特に投手は指をなめてはいけない。

- ・ 監督、コーチが試合中審判員に近づく際は、マスク着用の上最低1mの距離を空ける。
- ・ バット、ヘルメット等の共用せざる負えない用具は、こまめに消毒すること。
- ・ 選手は試合のプレー中はマスク着用を免除する。
- ・ 球審はマスクまたは飛沫防止シールドを着用する。塁審はマスク着用が望ましい。
- ・ 記録員はマスクを着用する。
- ・ 放送員は放送中を除きマスクを着用する。放送員が交代する場合は、マイクを消毒する。
- ・ 観戦者間の間隔をあけて観戦する。

③ 試合後

試合終了時の整列及び礼は、球審の合図で両チームベンチ前に整列し、その場で礼をして行う。
(選手同士の間隔を1 m以上確保すること。)

IV 大会運営等

- ・ 役員、審判員、記録員、補助員等大会関係者はマスクを着用し、人との距離を1 m以上離す。
- ・ 大会運営に直接携わらない関係者は来場を控える。
- ・ 参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合は遅滞なく、主管協会・主催協会等の関係機関に必ず連絡すること。

※ この基準は、情勢の変化や上部団体、関係行政機関の指導等により、随時見直し運用する。

令和2年8月1日作成